

## 令和6年度 第3回武蔵野市自転車等駐車対策協議会 議事要旨

日 時	令和7年2月7日（金）午後3時から午後4時40分まで
場 所	武蔵野総合体育館 3階 大会議室
出席委員	12名（欠席3名）

### 1 開会

### 2 報告

- (1) 自転車基盤整備状況（資料2-1、2-2、2-3）
- (2) 交通量調査（資料3）
- (3) 自転車停留台数調査（資料4-1、4-2）
- (4) 市内の自転車関与事故状況（資料5、5-2）
- (5) 自転車利用者アンケート調査（資料6、6-2、6-3）
- (6) 第六期長期計画・第二次調整計画（資料7）

事務局より、資料に基づいて説明。

### 3 議題

#### < (1) 自転車基盤整備状況について >

委 員 資料2-3の収容台数について、公共自転車駐車場だけでなく、大型店舗に設置されている民間自転車駐車場も含めてはどうか。

事務局 資料2-3の収容台数は民間自転車駐車場も含んだ台数も提示しており、令和6年度の3駅全体の民間自転車駐車場は、約7,000台あることがわかる。これらの民間自転車駐車場は、民間事業や武蔵野市自転車等の適正利用及び放置防止に関する条例をもとに設置された付置義務自転車駐車場が含まれている。

#### < (2) 交通量調査について >

委 員 平成30年と令和元年に実施した前回調査と比較して、自転車交通量は全体的に減少したのか。

事務局 前回調査と今回調査を比較すると、自転車交通量が 2,000 台を超える調査地点が減っている点から、自転車交通量は全体的に減少したといえる。

委員 吉祥寺のイーストエリアの、ヨドバシ裏の交通量は調査していないのか。

事務局 市道第 298 号線や市道第 99 号線は調査していないが、その周辺のヨドバシカメラ前の交差点や吉祥寺シアター付近の交差点、資料 3 の調査地点 H および I において調査を行っている。

### < (3) 自転車停留台数調査について >

委員 以前市民から、駅周辺にいる放置防止指導員の必要性を疑問視する意見があった。

事務局 市では、放置自転車の撤去よりも放置防止に力を入れている。放置自転車を撤去するに至るまでのプロセスは、放置防止指導員が放置自転車を確認し、該当の自転車に警告札をつけてから一定時間経過したのちに自転車の撤去を行うというものであり、自転車に警告札を貼付された多くの自転車利用者は自転車を移動させるため、撤去に至る前段階で放置自転車の増加を防いでいる。

委員 資料 4-1 において放置自転車台数を経年比較すると台数が減少しているが、それに伴い放置防止指導員の人数も見直しを行っているのか。

事務局 放置防止指導員の人数は毎年見直しを行っており、例えば吉祥寺駅周辺における放置防止指導員の人数は、平成 26 年度は 17～21 人だが令和 5 年度は 8～15 名に減員している。人件費の高騰などにより、人数が減少すれば契約金額が減少するわけではないが、限られた財源の中で、効果的に放置防止活動を行えるよう努めている。

委員 資料4-2について吉祥寺駅周辺で利用率が100%を超える自転車駐車場は、御殿山第2自転車駐車場や吉祥寺大通り北自転車駐車場、吉祥寺パーキングプラザ公共自転車駐車場、吉祥寺大通り東第3自転車駐車場など複数あり、自転車駐車場が足りていないように感じる。

事務局 市では、エリアごとに自転車駐車場の整備目標台数を設定しており、3駅とも収容台数は充足している状況である。例えば吉祥寺のイーストエリアでは、利用率が100%の自転車駐車場がある一方で、吉祥寺クックロード自転車駐車場の利用率は50～60%なためすべての自転車駐車場が満車という状況にはないと考えている。

事務局 現在の吉祥寺クックロード自転車駐車場は、新設当時と比べると、認知度の上昇に伴い利用率も上昇しており、以前まで空きのある自転車駐車場を探していた人にも認知されることで、空きのある自転車駐車場を探せば、どこかに駐輪できるという環境を創出できていると考えている。

委員 吉祥寺クックロード自転車駐車場の利用率が上昇している反面で、時間によっては自転車を駐輪できない問題が発生しないか心配である。

#### < (4) 市内の自転車関与事故状況について >

委員 資料5について、高齢者の自転車事故が増加傾向にある点から、高齢者に向けた自転車の安全利用に関する周知・啓発を行うべきではないか。

委員 令和6年中における、武蔵野市内の自転車関与事故件数は258件で、そのうち事故当事者が70歳以上の自転車関与事故件数は約20%であり、その多くは車道と歩道間の段差による転倒事故等の単独事故である。

事務局 市では、シルバー人材センターへの出張講習など高齢者を対象にした自転車安全利用の周知・啓発を行っている。毎月開催し

ている自転車安全利用講習会では、特に高齢者の参加者が多く、交通ルール・マナーに関する意識が高い印象である。高齢者が事故に遭うと大きな被害になると予想されるため、今後も高齢者に向けた周知・啓発について検討していきたい。

委員 高齢者は電動アシスト付き自転車を利用する割合が多い印象である一方で、重量なため転倒した際に扱いづらく、最近では踏切内で転倒し電車に轢かれた事例があった。その他に、高齢者が電動アシスト付き自転車を利用した際に発生した事件事例はあるのか。

委員 令和6年中における、武蔵野市内の事故当事者が電動アシスト付き自転車利用者の自転車関与事故件数は31件であり、自転車関与事故全体の約12%を占めており、高齢者に比べて子育て世代による利用が多い印象である。令和6年12月頃に交差点で電動アシスト付き自転車と車が衝突し、自転車に乗車していた子供が投げ出される事故が発生している。また、令和6年中における武蔵野市内の自転車関与事故当事者のヘルメット着用率は約9%であり、都内平均と比べて低い。今後も関係協力団体や市と協力し、ヘルメット着用を推進していきたいと考えている。

委員 資料5の、第一・第二当事者の定義について説明いただきたい。

委員 当事者が2名いる場合において、交通事故に関与した車両等の運転者のうち、過失が重い者を第一当事者といい、過失が軽い者を第二当事者という。単独事故のような当事者が1名の場合は第一当事者にカウントされている。

#### < (5) 自転車利用者アンケート調査について >

委員 資料6の47、48ページについて、自転車の安全利用に関する項目の、現状の評価は低く今後の重要度は高い一方で、他の項

目は現状の評価も今後の重要度も高いことから、自転車利用者は、接触事故等の危機性を感じながら自転車を利用していると考える。今後も自転車が安全に走行できる環境整備に努めていただきたい。

資料6の50ページ「⑦駐輪場の整備について」の回答48件の意見別の内訳件数を教えていただきたい。

事務局 48件のうち、「自転車駐車が足りない」が27件、「駅近くに自転車駐車を設置してほしい」が9件、「駅から離れた場所にも自転車駐車を設置してほしい」が3件、「それ以外」が9件である。

委員 資料6の51ページ「⑩シェアサイクル・電動キックボードについて」に関連し、シェアサイクル導入に関する市の見解を教えてください。

事務局 市としての今後の方向性は今すぐお示しできないが、近隣自治体への聞き取り等を行い、研究を慎重に行っていく。

委員 是非、前向きに検討いただきたい。

委員 本アンケート結果は計画策定に向けた情報収集の一環であり、シェアサイクルの導入は今後の協議会で議論したい項目である。

委員 子乗せ自転車などの大型車による交通事故や、大型車の駐輪環境整備等の観点から、子乗せ自転車利用者のみを対象とした調査結果を抽出できると良いのではないか。

事務局 今後は、クロス集計によるアンケート結果を提示したいと考えている。

委員 資料6の50ページ「③自転車利用者のマナーやルールの順守について」の回答結果で得られた交通違反に関する意見について、どの年代へのアプローチが必要と考えるか。

- 委員 全世代に対して、年代別に効果的な方法で安全啓発を行う必要がある。
- 例えば、未就学児や義務教育を受ける子どもに対しては適切な自転車利用について指導を、高校生に対してはヘルメット着用を推進するなどして安全啓発を行っていく必要がある。
- 委員 ヘルメットの着用率を上昇させるためには、工夫が必要であると感じる。例えば、自転車とヘルメットをセットで購入する際に使用できる助成券の交付や、自転車駐車場に鏡を設置し着用時に髪型を気にする人も着用しやすい環境を提供するなどが考えられる。
- 委員 行政によるヘルメット着用を推進する環境づくりも重要であるが、例えば自動車乗車時のシートベルト着用義務化のように、ヘルメット着用も義務にすることが必要ではないか。強制力を持たせることで、ヘルメット着用率も上昇すると考える。
- 委員 警察では、酒気帯び運転やながらスマホに対する罰則強化、いわゆる青切符制度の導入などで、自転車の交通違反への厳罰化を図っており、今後は自転車乗車時のヘルメット着用が罰則強化の対象となるかなど注目すべき点である。
- 委員 成人してから自転車の交通ルールを学ぶより、未就学児から安全教育を学んだほうが効果的であると考え。中・高校生へは動画で学べるような安全教育活動や、学校の卒業生が安全教育を行うなどをしていくべきだと考える。
- 事務局 市と警察で協力し、市立の小・中学生を対象に交通安全教育活動を行っているが、その際に未就学児へのアプローチも必要との意見をいただいた。
- 交通安全教育については、本計画改定に反映させるにあたり重点を置いて分析していきたいと考える。
- 委員 今後は、公共と民間との協力が必要と考える。

以前、安全教育活動のため他自治体の学校へ訪問した際に、学生からは、成人は自転車利用マナーを順守していないとの意見があったことから、成人の自転車利用が注目されていると感じた。

委員 私自身、業務で自転車の安全利用について触れる機会があることから、改めて成人に対する交通ルール・マナーの周知徹底も重要であると感じた。

#### 4 閉会